

## はじめに

成果報告書は、様式（A, B, C, 海外 3）と原稿から成ります。原稿は、様式とは別紙で本文テキストのみ記入してください。

自然保護助成基金や助成プログラムに対する謝辞を書かないでください。

この報告書に掲載されている全ての報告文が、公益財団法人 自然保護助成基金の助成によるためです。他の資金援助団体からの資金提供に関する謝辞を書くこともお控えください。

- 成果報告書には、公益財団法人 自然保護助成基金から助成金をうけて実施された研究／活動の成果のみを記して下さい。
- 自然保護上、情報を公開すると問題があるもの（密猟者に狙われる可能性のある希少生物の生息地など）は記載をお控えください。
- 注は原則として用いないでください。

## 様式

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成

国内研究助成： 様式 A

国内活動助成： 様式 B

海外助成： 著者が日本語使用 研究プロジェクト：様式 A 活動プロジェクト：様式 B

著者が英語使用 様式 C+海外様式 3（日本人プロジェクトメンバーが Summary の和訳を書く）

協力型助成（国際 NGO 助成，学協会助成，国際的プログラムに関する助成）

研究・活動ともに様式 A

- 日本語タイトル  
申請プロジェクト名と一致することが望ましいが、プロジェクトの成果を最も適切に要約したものであれば、必ずしも一致していなくて構いません。副題は入れないでください。

英語タイトル

基本的には小文字で書く。タイトルの先頭一文字と、固有名詞の各単語の先頭一文字は大文字。

タイトル末にはピリオドを打たない。

英語の意味が正確に通るかご注意ください。

- 著者  
国内研究助成では、プロジェクトのメンバーであり、その成果に対し学術的な貢献のあった者としてください。ただし、顕著な学術的貢献がある場合は、プロジェクトのメンバー以外も著者に加えてかまいません。国内活動助成でプロジェクトメンバーが多数の場合は、プロジェクトの推進にあたり中心的な役割を果たした者に限って下さい。
- 日本人名で姓か名が一文字だけの場合、姓名間に全角スペースを空けてください（島 啓太、長谷川 雄、勝村 遼など）。
- 日本人著者名の英語表記  
様式 A, B において、日本人著者名のローマ字表記は、TANAKA, Taro のように姓名の順とし、姓は大文字、名は最初の一文字のみ大文字としてください。姓と名の間には半角のコンマ (,) を入れてください。
- 所属機関  
「～大学～学部」「～大学～研究所」のように記し、それよりも細かい所属は不要です。教授、研究員などの肩書も書かないでください。著者名の右側に上付き数字を添え、所属機関の番号と対応させてください。同じ所属先の著者には同じ数字を振ってください。
- 英文グループ名は、各ワードの先頭を大文字に、あとは小文字に (in, on などは小文字)。

#### キーワード

- 様式 A, B では、報告書の内容を的確に示す 4～6 個のキーワードを、日本語および英語で記入してください。
- 日本語は五十音順、英語はアルファベット順に並べてください。
- タイトルに用いている語は除いてください。
- 著者の造語、一般性のない語、過度に長い複合的な語などは用いないでください。
- 英語キーワードは小文字でお書きください（固有名詞のみ先頭を大文字にする）。英語の意味が正確に通るかご注意ください。

- 要旨  
図・表や特定の文献への直接的な言及は避けてください。Summary（英語要旨）は、日本語要旨に対応するものとしてください。

#### ✚ 本文（要旨、文献リストにも共通）

##### フォント

日本語 「小塚明朝 Pro」 サイズは 10～11 ポイント。

英数字 「Times New Roman」 **半角** ただし、章タイトルに使う場合は全角。

章タイトル 「小塚ゴシック Pro」

## 学名

- 学名（属名＋種小名）は**イタリック**で書く。
- 属名の先頭一文字を大文字とし、あとは小文字で書く。
- 亜種（変種 var. 品種 f. など）は**正体**で書く。
- 属名より上の分類群名は正体で書く。
- 俗名（普通名, common name）や和名は、全て正体小文字で書く。ただし、固有名詞になっている場合は、先頭のみ大文字にする。
- 命名者名と命名年は正体で書く。命名者名は、頭文字のみ大文字。

（例）

*Rhodeus ocellatus kurumeus*

*Pyropia tenera* var. *tamatsuensis*

*Pyropia yezoensis* f. *narawaensis*

*Ginkgo biloba* L. 1771

Ryukyu scops owls ←俗名かつ固有名詞

- 日本人名が3文字の場合、あるいは4文字で姓または名前が一文字の場合、姓名間に全角スペースを開けてください。
- 句読点は、コンマ（,）とピリオド（.）を使用。ともに全角。
- 100 cm, 99 %など単位記号の前は半角スペースを入れてください。㎧など特殊文字（文字化けを引き起こす可能性のある機種依存文字あるいは環境依存文字）は使用しないでください。
- 括弧は、日本語の場合は全角、英文の場合は半角でお書きください。「」は全角。
- ①②など、マル数字はなるべく使わないでください。
- 緯度・経度は、「北緯 42 度 15 分」または「42° 15' N」のように表記してください。
- 英単語の途中で改行する場合は、正確な位置でハイフネーションを行ってください。

## 図表

### 本文中での図表の指示

必ずすべての図表を（図1）のように引用してください。また、コメント機能、テキストボックスなどを用いて図表の配置位置を示してください。報告書の末尾にまとめて配置しないでください。

- 図表は、それぞれ個別のファイルで提出してください。
- 画質の粗い図表がないか注意してください。
- 図表ごとに、図1、表1のようにそれぞれ通し番号を付けてください。一つの図表が複数の部分に分かれる場合や複数の図表を同じタイトルで並べたい場合は a, b, … を付し、本文では図1a のように言及してください。

- 写真は、図として扱います。
- 緯度・経度が図示されていない地図には原則として縮尺と方位を付けてください。
- 地図を利用する際には、著作権所有者のルールに従い、権利帰属や出所を明示してください。
- 表の表頭のカテゴリーと数値の位置が揃うように注意してください。各数値の小数点以下の表記が揃うようにしてください。また、グラフにおいて、目盛の数値全てが～.0 となる場合は小数点以下を削除してください。

## 引用（インテグストサイテーション）

- ……（著者名 2015）のように記載。著者名と年の間には「,」等はいれない。
- 著者が2名の場合は「・」で区切る。英語の場合は and を入れる。
- 著者が3名以上の場合は（筆頭著者名ほか 2015）と表記。英語の場合は（Author et al. 2015）  
et al. は正体で書く。

### 引用漏れに注意

文献リストにあるのにインテグストサイテーションがない、引用はあるのに文献リストにない、ということがないようにしてください。

## 文献リスト

### 基本的なフォーマット

名前[スペースなし]刊行年. [スペースなし]タイトル. [スペースなし]雑誌名[スペースなし]  
巻号：開始ページ-終了ページ.  
Author.[半角スペース]Year.[半角スペース]Title.[半角スペース]Journal name[半角スペース]:Volume[半角スペース]Start page-Last page.

### 文献リストの著者名

日本語、中国語、韓国語：フルネーム 姓名順は各国の表記方式に倣う。  
英文文献：姓, ラストネームのイニシャル。（ミドルネームのイニシャル。）  
例 Taro Tanaka →Tanaka, T.

- 文献名や雑誌名は略記しないでください。
- 英文の論文名や単行本名では、固有名詞を除き、最初の1文字および副題の最初の1文字のみを大文字としてください。
- 学術誌掲載論文では、論文の最初と最後のページを示してください。
- インターネットサイトを引用する場合には、著者 発行年. タイトル. URL. [最終閲覧日]の順に記してください。ウィキペディアやブログの引用はしないでください。

### 見出し

章は I., II., ……., 節は 1., 2., ……., 項は 1), 2), …….

- 文献リストの並べ方
  - 日本語文献，欧語文献に関わらず，著者名（姓）のアルファベット順に並べてください。
  - 同じ著者の文献は発表年の順に並べてください。同じ発表年のものが複数ある場合には，引用順に年号の後に a, b, c・・・を付して並べてください。
  - 筆頭著者が同じである連名著者の文献の場合には，著者数の少ない順に並べてください。著者数が同じ場合には，第2著者（以下）のアルファベット順に並べてください。

## 基本例

### 学術誌

合田 録・高柳 敦 2008. シカの利用頻度が草本群落に及ぼす影響. 森林研究 77 : 35-41.

#### • 英文 著者 2 名

Craig, P., Trail, P. and Morrell, T.E. 1994. The decline of fruit bats in American Samoa due to hurricanes and overhunting. *Biological Conservation* 69: 261-266.

#### • 英文 著者 3 名以上

Welbergen, J.A., Klose, S.M., Markus, N. and Eby, P. 2008. Climate changes and the effects of temperature extremes on Australian flying foxes. *Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences* 275: 419-425.

#### • 英文 同一著者、同一年の文献

Anderson, S., Adhikari, B.S. and Rawat, G.S. 2014a. Influence of microclimate on the activity of Royle's pika in the Western Himalaya, India. *Zoological Studies* 53: 73-85.

Anderson, S., Adhikari, B.S. and Rawat, G.S. 2014b. Influence of snow, food, and rock cover on Royle's pika abundance in Western Himalaya. *Arctic Antarctic and Alpine Research* 46: 558-567.

### 書籍

増沢武弘 1997. 「高山植物の生態学」東京大学出版会 33-108.

Polunin, O. and Stainton, A. 1984. *Flowers of the Himalaya*. Oxford University Press. New Delhi.

### 編著

漆原和子 1990. 石灰岩地域の土壌. 浅海重夫編「土壌地理学—その基本概念と応用」古今書院 : 177-185.

Ray, C., Beever, E. and Loarie, S. 2012. Retreat of the American pika: up the mountain or into the void? In: Brodie, J.F., Post, E. and Doak, D. (Eds.) *Conserving wildlife populations in a changing climate*. University of Chicago, Chicago, IL.

### オンライン資料

環境省 2016. 特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン（ニホンジカ編・平成 27

年度）. <https://www.env.go.jp/nature/choju/plan/plan3-2e/nihonjika.pdf>. (2016. 8. 25 閲覧)

Cartwright, J. 2007. Big stars have weather too. IOP Publishing PhysicsWeb. <http://physicsweb.org/article/news/11/6/16/1>. Accessed 26 June 2007.

## 二重投稿の恐れについて

- 成果報告書と全く同じ内容のものを学会誌等に投稿すると、二重投稿と見なされる場合がありますので、注意して下さい。二重投稿になるか否かは、当財団では判断いたしかねますので、学協会の投稿規定に従って下さい。不明点は各学協会に直接お問い合わせ下さい。（事務手続きの手引き 8 頁）
- 当財団としては、本執筆要領に沿っていただければ、成果報告書の形式（見出しの内容、順番など）は厳密に指定しておりません。過去の報告書と同一である必要はなく、各学術雑誌等から二重投稿とみなされないよう、適宜、形式をご設定いただければかまいません。
- 成果報告書に掲載するデータを、他の論文や報告書で使用されるケースがありますが、当財団としては、データの出所（どこでどのように取ったか、あるいはどの学会誌で発表されたものか等）が明確であれば、二重投稿とは見なしておりません。